

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究 (②セ03-08-3/3)

龍門石窟の保存修復に関する調査研究

目 的

中国龍門石窟の保存に協力するため、龍門石窟研究院との緊密なパートナーシップを構築し、龍門石窟の現状を詳細に調査し、保存修復の方法についての研究と具体的な処置、人材の養成など、多角的で実効的な成果をあげようとするのが、本研究の目的である。平成13年度からの5カ年中長期計画に引き続き、平成18年度からの3年間で実施する。

成 果

(1) 専門家派遣

7月14日～17日の日程で、津田豊氏（(株)ジオレスト）と岡田健が龍門石窟へ赴き、龍門石窟の保護に関して、環境、修復技術、管理運営等の各項目を現地で精査し、龍門石窟研究院及び同石窟で実施中のユネスコ/日本信託基金龍門石窟保護修復プロジェクトにおいて修復作業の設計等を担当している中国文化遺産研究院等に対して、指導助言を行った。

(2) 活動紹介パンフレット『世界遺産・龍門石窟保護のための国際協力—その足跡と成果—』の編集・発行

平成12（2000）年以來実施し、平成20年度をもって終了する中国・龍門石窟の保護のための各種協力事業について、同年9月から東文研エントランスホールでパネル展示による紹介を行った（企画情報部担当）のを機会に、その内容を印刷物に作り、関係機関へ配布するとともに、玄関等に設置して来訪者に自由に取っていただけるようにした。A4版、カラー、8ページ。

[目次]

はじめに

1. 龍門石窟の概要と保護
2. 国際協力の発端
3. ユネスコ/日本信託基金龍門石窟保護修復プロジェクト
4. 人材育成
5. 写真撮影と画像データ管理システム構築のための共同研究
6. 東文研所蔵龍門石窟拓本資料

研究組織

○岡田健、杉崎佐保恵（以上、文化遺産国際協力センター）

龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究 (②セ03-08-3/3)

陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究

目 的

東京文化財研究所は財団法人文化財保護・芸術研究助成財団と陝西省文物局の合意により平成16年度から実施されている陝西唐代陵墓石彫像保護修理事業を西安文物保護修復センターと共同で運営実施している。

この事業に関連して、唐時代の乾陵、橋陵、順陵に附属する石彫像の保存修理に関して、科学的研究と保存修理作業を行うと共に、石彫像保存地区の保存計画策定の研究を行う。

成 果

(1) 石造文化財の保存に関するシンポジウム

陝西省唐代陵墓石彫像保護修復事業と本プロジェクトが本年度で終了するにあたり、11月17日、18日の日程で、西安市において「石造文化財の保存に関するシンポジウム」を開催し、その成果を中国各機関・大学等の専門家に披露するとともに、各種の問題について意見交換と交流を図った。

主 催：西安文物保護修復センター／東京文化財研究所

参加者：中国国内の石造文化財の保存に携わる専門家 約30名／日本側参加者 4名

研究会内容

森井順之（東文研） 九州臼杵摩崖石仏覆い屋建造後の環境観測

友田正彦（東文研） 石造遺跡の保存管理—アンコール遺跡群の場合—

津田豊（（株）ジオレスト：UNESCO龍門プロジェクト専門家） 龍門石窟の結露現象

方雲（中国地質大学・武漢） 順陵石刻の亀裂変形観測

甄広全（西安文物保護修復センター） 石質保護材料研究

朱一清（中衛康隆ナノ科技發展公司） 石質文物保護材料とその評価体系

万俐（南京博物院） 江蘇句容貌山華陽洞摩崖題刻の保護

馬濤（西安文物保護修復センター） 乾陵石刻の表面保護処理

(2) 報告書の作成

各年の成果をまとめた報告書「日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト—その経緯と成果—」を作成した。(⑥刊行物に関する事業一覧を参照)

研究組織

○岡田健、杉崎佐保恵（以上、文化遺産国際協力センター）